

# 新店舗 コンセプト設計・店舗イメージ

## ① 店名とブランド名の意味

### 夜ノ食堂 よふけ

ドラマ「深夜食堂」が好きで、こんな雰囲気のお店をしたいなとずっと思っていた。

「よふけ」：深夜を意味する古語。静けさ・ぬくもり・寄り添いを感じる。

> 一日の終わりに、もう少しだけ語りたくなる。飲んで、つまんで、笑って帰る。そんな“夜更け”の拠り所。

## ② コンセプト

### “深夜のあかりをともし、金沢の夜食堂”

観光客・出張者・地元の常連が、  
“最後に一杯”を求めてふらりと立ち寄る。  
牛骨と金沢だしのダブルスープでつくる肉吸いを中心に、  
心も体も温まる「金沢の夜の居場所」を提供する。

## ③ 立地とターゲット

立地： 金沢駅前（東口～此花町エリア想定）

営業時間： 19:00～翌 3:00 (L.O. 2:30)

### ターゲット層

- ・ 地元のビジネスマン
- ・ 出張帰りのビジネスマン
- ・ 出張中のビジネスマン
- ・ 一人飲み、はしご客
- ・ 観光で夜遅くまで滞在する県外客
- ・ インバウンド客

#### ④ 看板商品

##### 金澤肉吸い

牛骨スープ×金沢だし（能登いしる+石川県産椎茸+煮干し）

シンプルながら深みのある「金沢版ダブルスープ」

トッピングで地元要素を演出（加賀野菜・白山堅豆腐など）

>定食でも居酒屋でもない、「夜の寄り道どころ」

#### ⑤ ドリンクスタイル

生ビール・瓶ビール・ハイボール・日本酒・サワー・焼酎・果実酒・ワイン  
ソフトドリンク・よふけ出汁割り

よふけ出汁割りとは・・・

日本酒・焼酎・ウイスキーを肉吸い出汁で割る

酒：肉吸い出汁（1：2）の割合

#### ⑥ 空間・内装イメージ

世界観テーマ

##### 「夜の灯りと湯気」

> 深夜食堂のドラマのように、静かな夜にひとつの明かりが灯る。  
人の話し声と箸の音だけが響く。

「よふけ」は、そんな“金沢の深夜食堂”の現代版。

要素 内容 備考

- ・カウンター 15 席。奥行きがあり、客との距離が近いコの字型。
- ・店主の表情が見える構造に。
- ・厨房背面 調理器具や鍋がむき出し。鉄鍋・やかん・土鍋が並ぶ。生活感が“味”になる。
- ・壁面 木目（焦げ茶）+油染み+小さなポスターや短冊メニュー。適度な“古さ”を演出。
- ・照明 一般的な電球色。スポットではなく裸電球や丸ランプ。照らすのではなく“灯す”。
- ・床・天井 黒モルタル or 古材風フローリング。天井は低めで圧迫感なく包まれる感じ。“狭いけど落ち着く”構造。

暖簾：深藍地に白文字（白抜き）筆文字風「よふけ」。麻風または厚手の綿（透け感あり）

提灯：「肉吸い」と入れた一灯。

器：古伊万里・信楽・有田など“家庭的な和の器”を混在。

BGM：ジャズ、フォークなど。

湯気と匂い：できるだけ“湯気の見える店”に。

#### パート 色・素材

カウンター 焦げ茶の木目 × 無垢天板  
 壁 ベージュグレー or 黒に近いスス色  
 暖簾・提灯 紺 × 白  
 照明 電球色・裸電球・乳白ガラス球

#### 加賀友禅の装飾

“雪吊り”の写真や金沢の夜景をモノクロで1枚だけ。

アンティークは柱時計で「時間がゆっくり流れている感覚」を演出。

金沢駅前の一角にぽつんと灯る一軒。  
 湯気と出汁の香り、古木のカウンター、静かな笑い声。  
 行き場のない夜に帰ってこられる、“金沢の深夜食堂”。

## ⑦ 世界観コピー

行き場のない夜は、よふけへ。  
金澤の夜にしみる、ひと椀のぬくもり。

## ⑧ 運営スタイル

店主1名+アルバイト1名

## ⑨ ビジュアルアイデンティティ

メインカラー：藍紺 × 白墨色

ロゴ：筆文字風（手書きの温度感）

サブ要素：丸型提灯・暖簾・木看板

キャッチコピー：

→ 行き場のない夜は、よふけへ。

## ⑩ 将来的な展望

「金澤肉吸い」という新しい金沢発の食文化として発信

Instagramを中心にブランディング

県外出店時は「Kanazawa NIKUSUI」として海外・観光客層にも展開

金沢文化の“夜の顔”を象徴するシリーズブランドへ